

3 生涯健康管理サービス「Health Data Bank® (ヘルスデータバンク)」

従業員の健康情報を一元管理し 健康経営を効率的かつ確実に支援

労働人口減少や働き方変革などの環境変化を受け、「健康経営」が企業における重要な経営課題として注目されている。NTTデータが2002年より提供する「Health Data Bank (ヘルスデータバンク)」は、従業員の健康情報を一元管理することに加え、企業が抱える健康課題を統計・分析により明らかにし、継続的な健康経営の推進と企業価値向上を支援する。

健康経営への関心の高まり

国家成長戦略である「日本再興戦略」のテーマの一つとして掲げられた“国民の健康寿命の延伸”をきっかけに「ホワイト500」や「健康経営銘柄」などの認定が行われるようになった。経済産業省「健康経営の推進について※1」によると、従業員の健康に対して1ドル費やすことにより、生産性向上やモチベーションアップ、医療費抑制等の効果に繋がり、3ドルの投資リターンに繋がるとの調査結果も出ている。

このような情勢をうけ、多くの企業では「健康経営の推進」を新たな経営課題として捉え、各企業は、健

康経営の推進を通じて、労働生産性の向上や優秀な人材の確保、企業のイメージアップなどに繋げることを目論んでいる。

健康管理クラウドサービス「Health Data Bank」

健康経営を推進していくにあたり、まず従業員の健康を把握する必要がある。

医療・ヘルスケア分野で数多くの実績を持つNTTデータは、2002年より生涯健康管理サービス「Health Data Bank (ヘルスデータバンク)」を運営してきた。オンプレミスが主流であった産業保健業務システムにおいてクラウドサービスという切り口で規模や業界問わず約



株式会社 NTT データ
第二公共事業本部 ヘルスケア事業部
健康ソリューション担当
(左から)主任 福士 裕稀氏、勤務 三好 雄登氏

2,000 団体、400 万人分のデータを扱うまでに成長した。これは従業員健康管理システム市場における TOP シェア 約 70%※2 を意味する。さらに、健診データの一元化の大きな課題となる「データ形式の統一化」に対して強みを持ち、約 2,000 の医療機関とのデータ変換実績を保有している。

このサービスの役割は、健康診断結果をベースとした企業の産業保健や医療保険者の保健事業を支援することである。具体的には、従業員等が受診した健康診断の結果を、健診実施機関ごとに異なるデータから変換・一元化し、これまで手作業であった措置対象者抽出、労基署報告帳票

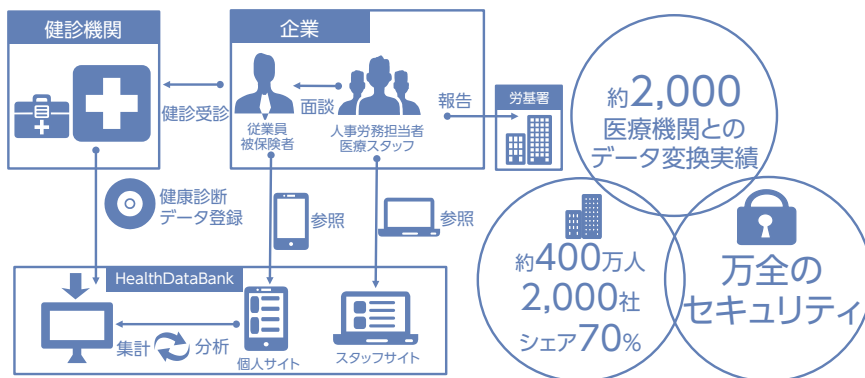


図1 Health Data Bank 概要図

作成等の業務を軽減することで保健スタッフを支援する。また、特定健診や特定保健指導の記録の保存など、医療保険者の業務にも対応している。企業の健康管理室や、健保・共済・自治体等の医療保険者などで導入が可能となっている。

さらに「Health Data Bank」では2015年に義務化される以前よりインターネットを通じたストレスチェックサービスを提供してきた。ストレスチェックの実施から労働基準監督署への報告までの義務化対応に必要な機能を装備している。

健診データ活用による健康経営の推進

「Health Data Bank」では健診データの一元化だけでなく健康課題を統計・分析により明らかにし、継続的な健康経営の推進と企業価値向上を実現する。

一つ目がダッシュボード機能である。健康診断の結果を基にした有リスク者の割合（図2下）や、保健相談のレベルサマリ（図2左上）、生活習慣と健康リスク（図2中央上）、組織別の高ストレス者割合、性別・年代別の健診受診率といった自社の従業員の健康状態を様々な角度から把握することができる。また、「自社」と「HDB利用企業の各指標における平均値」を比較し、自社課題を客観的に把握することができる。このような現状の可視化により、早期の対策と施策実施後の効果測定を可能にすることで効率的な健康経営への支援を行う。

二つ目がリスク予測分析機能である。これは健康経営の支援を目的とした、AIによる「生活習慣病の発

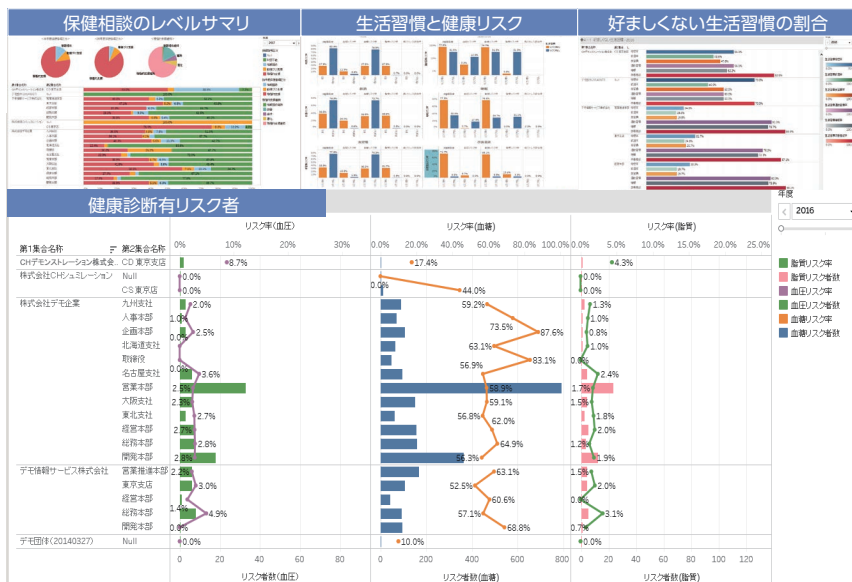


図2 ダッシュボード機能

症リスク予測」を行う機能である。不均質なデータであっても、高精度な分析を実現する手法を確立しており、健康診断で得られた検査値データや問診結果といったデータをもとに、将来の疾病発症確率の予測を実現している。ダッシュボード機能と組み合わせることで組織ごとのリスクを分析することができ、早期の対策を打つことで健康経営、ひいては健康寿命の延伸につながる。

三つ目がBtoCのアプリケーションとの連携である。歩数等の活動データを収集するアプリケーションと「Health Data Bank」を連携することで個人の健康状態に応じたミッションを設定することが可能になる。ユーザの健康施策に併せたミッションを設定することで個人のモチベーションアップにもつながり、健康施策を推進することが可能になる。今後はバイタルデータ等を収集する端末との連携も進めていく。

「Health Data Bank」の今後の展望

「Health Data Bank」で蓄積した健康情報データと分析技術／統計分析（AI分析）を駆使して、健診データ活用の領域拡大を検討中である。健診データだけでなく、レセプト、勤怠情報、エンゲージメント、活動量、バイタル、ゲノム等のデータとも連携することで、生活習慣病だけでなく病気休職のリスク予測など様々な価値の提供に取り組んでいる。

このような取り組み事例から、現在、保険業界、金融業界、製造業界、小売業をはじめとする様々な企業様から新規のデジタルビジネス検討に向けた協業のお声がけをいただいている。今後もNTTグループ内外のビジネスパートナーとともに「生涯健康の社会」の実現に取り組んでいく。

※1 https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/180710kenkoukeiei-gaiyou.pdf

※2 富士経済「ヘルステック&健康ソリューション関連市場の現状と将来展望2019」より